

氷見市議会企画総務委員会会議録

令和2年2月14日（金）

氷見市庁舎議事堂委員会室

開会 午前 9時59分

休憩 午前 11時58分

再開 午後 0時59分

閉会 午後 1時15分

- 1 案 件 令和2年度予算案のうち企画総務委員会の所管に係るもの
- 2 出席委員 6名
小清水委員長、稲積副委員長、越田委員、荻野委員、澤田委員、嶋田委員
- 3 委員外議員 積良副議長、穴倉議員、北議員、屋敷議員、萬谷議員、正保議員、竹岸議員、松原委員、上坊寺議員、谷口議員
- 4 職務のため出席した事務局職員 坂本事務局長、串田事務局次長
- 5 説明のため出席した者の職、氏名
林市長、小野副市長、金谷代表監査委員、京田企画政策部長、森秘書広報課長、高野地方創生推進課長、戸田地域振興課長、藤澤総務部長、泉澤総務課長、東軒財務課長、森川税務課長、川淵会計管理者、新井監査委員事務局長ほか関係職員
- 6 傍 聴 人 1人
- 7 経過及び結果
 - ・小清水委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
 - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、説明を了承することとした（主な質疑応答は別紙のとおり）。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

令和2年2月14日

氷見市議会企画総務委員長

小清水勝則

令和2年2月企画総務委員会調査日程表

10:00 ~
11:58

令和2年2月14日(金)午前10時
氷見市庁舎議事堂委員会室

- ◎ 議会事務局
・事業別明細書..... P 9 2
- ◎ 会計課
・事業別明細書..... P 9 1
- ◎ 監査委員事務局
・事業別明細書..... P 1 1 6
- ◎ 秘書広報課
・事業別明細書..... P 1
- ◎ 地方創生推進課
・事業別明細書..... P 3
- ◎ 地域振興課
・事業別明細書..... P 5
- ◎ 新文化施設建設室
・事業別明細書..... P 8
- ◎ 総務課及び選挙管理委員会事務局
・事業別明細書..... P 1 0
- ◎ 税務課
・事業別明細書..... P 1 5
- ◎ 財務課
・事業別明細書..... P 1 2

(注) 一般会計における人件費(総務課を除く)に係る説明は不要です。

主な質疑応答

| | |
|---------------|---|
| 企画秘書課 澤田委員 | 12 未来技術活用検討事業費について。5G とか RPA とか専門的で理解できないので、わかりやすい資料を提供願いたい。 |
| 森課長 | 準備します。 |
| 越田委員 | 12 未来技術活用検討事業費について。プロジェクトチームをつくるという説明だったが概ね何人ぐらいの組織か。 |
| 森課長 | 事務局を地方創生推進課に置き、課長がリーダー、秘書広報課の情報化推進総括担当と庁内の ICT 活用研究会の会員 10 名程度で構成し、案件ごとに担当課の職員を招集するという形なので、各回の人数は概ね 20 名程度を考えている。 |
| 越田委員 | この事業の効果はどの程度見込んでいるか。 |
| 森課長 | これからの会議の中で検討していく。 |
| 越田委員 | 我々の会派でも視察で 5G を勉強してきたが、庁内での検討だけでなく、国の予算も活用し進めていただきたい。 |
| 森課長 | 地域情報化アドバイザー派遣制度も活用し進めていきたい。 |
| 稲積委員 | 12 未来技術活用検討事業費について 予算の内訳は。 |
| 森課長 | RPA 導入や 5G 調査の委託料で 4,925 千円、手書きを読み込む OCR 機器の使用料 1,320 千円のほか講師招聘費である。 |
| 稲積委員 | RPA で今年度 4 業務導入、新年度も新たに 4 業務導入ということだが、その導入効果は。 |
| 森課長 | 今年度導入した、税収納業務、軽自動車税業務、住民登録業務、会計課の収入日計表の業務で、従来年間 330 時間かかっていたところ、導入時には概ね 8 割が縮減されると想定しており、3 月に集計する予定。 |
| 澤田委員 | 4 男女共同参画プラン推進事業について この事業は何年前から予算化されているか。 |
| 森課長 | 資料を持ち合わせていないので、後ほど答えさせていただきたい。 |

| | |
|--|--|
| <p>澤田委員</p> <p>森課長</p> <p>澤田委員</p> <p>森課長</p> | <p>この事業の評価、成果をどう考えているか。私はマンネリ化しているのではないかと思っているが、いかがか。</p> <p>男女共同参画については、平成29年度に新しい計画を策定し、その中で評価することが書かれており、今年度の9月頃に平成30年度に取り組んだ各課の事業について評価したところである。目に見える評価は難しいが、意識付けという点では一定の前進がみられているのではないかと感じている。</p> <p>市民に具体的な成果を示せるような取り組みを求めるがいかがか。</p> <p>私どももそういう形を目指して取り組んでいる。市民へも目に見える形で伝えていきたい。</p> |
| <p>地方創生推進課</p> <p>嶋田委員</p> <p>高野課長</p> <p>嶋田委員</p> <p>高野課長</p> <p>嶋田委員</p> <p>高野課長</p> | <p>10 大学連携推進事業費について。昨年度比7,895千円の減は、主に施設整備終了によるものか。</p> <p>エアコン整備や活動拠点整備で約8,000千円の予算であったので、事業費減と呼応している。</p> <p>新年度の連携先は主に氷見高校か</p> <p>これまで行ってきた氷見高校との共同研究や加工品づくりは引き続き行っていき、自然栽培に係る農業者の育成や氷見産農産物の加工品づくりという新たなものにも取り組んでいく。</p> <p>このほか協議会に入っている農協をはじめ、各企業と名城大学とがうまく事業が取り組めるよう、コーディネーターの方にマッチング業務もお願いしながら事業の円滑な推進を図っていく。</p> <p>これまでの連携で企業が表に出てきていない。締結から3年目を迎える年である。企業にいろいろ声掛けし、最終的には企業が名城大学との連携で地域づくりに貢献してほしいというのが連携締結時の最大の目的だと思うので、令和2年度はそういった方向に向けてしっかりと進めていただきたい。</p> <p>令和元年度においても、JFE エンジニアリングや北陸電力を交えた植物工場の勉強会を開催し、氷見での導入に向けて検討をしてきたが、企業と名城大学との連携をさらに進めるために、新年度はコーディネーターの方をお願いし形づくりに努めていきたい。</p> |

| | |
|------|--|
| 澤田委員 | 11番 世界農業遺産認定事業費について。認定の見込みは。 |
| 高野課長 | 現在、定置網を中心に取り組んでいるところである。氷見の良さをしっかり申請書として書き上げることができれば、認定が叶うと考えている。 |
| 澤田委員 | 認定されるとしたら、現在は段階で言えばどれぐらいか。 |
| 高野課長 | 令和2年6月までに申請書を提出しなければならないが、しっかりと書き上げ内容等を協議会で審議してもらうために、現在鋭意取り組んでいる。段階で言うと半分の5段階ぐらいかなと思っている。 |
| 澤田委員 | 定置網を中心にとのことだが、氷見だけなのか、県内の定置網みんな連携して申請するのか。 |
| 高野課長 | 氷見市だけの申請である。 |
| 澤田議員 | 近隣の協力を求めていくことも大事。氷見市だけで申請書を作っても効果がないのかもしれない。 |
| 高野課長 | 県内の漁協や定置網関係者に足を運んで、氷見の取り組みをご理解いただくようにしたい。 |
| 稲積委員 | 11番 世界農業遺産認定事業費について。 令和2年度予算と令和元年度予算は、ほぼ同額になっているが、内容はどちらがうのか。 |
| 高野課長 | 令和元年度は、申請書作成、機運醸成の取り組み、シンポジウム開催、先進地視察、大学教授等との意見交換のための旅費など 令和2年度は、申請書提出後の現地調査のための資料作成や農林水産省での2次審査におけるプレゼンテーションに係る経費等である。 |
| 稲積委員 | 以前に質問した際、認定されるためには、市民の機運の醸成が必要となってくるといった答弁をいただいた。そして元年度にはシンポジウムを開催するということだが、令和2年度はそういった機運醸成のために何か考えているか。 |
| 高野課長 | 令和2年度もバスツアーを開催し、船に乗って定置網を見学することなどの市民の機運醸成に努める。 |
| 稲積委員 | そういった企画に市民がどれほど参加しているか気になるところだが、決して行政だけが盛り上がるのではなく、令和2年の認定に向け、しっかり |

| | |
|--|---|
| <p>高野課長</p> <p>稲積委員</p> <p>高野課長</p> <p>澤田委員</p> <p>高野課長</p> <p>澤田委員</p> <p>高野課長</p> | <p>りと市民にも風を吹かせながら事業を進めていただきたい。</p> <p>なかなか市民の機運が盛り上がっていないというのは感じているが、市民にも理解をいただけるようしっかりと取り組みたい。</p> <p>そのために、のぼり旗や横断幕等を掲げる予定はあるか。</p> <p>日本農業遺産に認定された際には、市民への周知を図る方法の一つとして、そういったことも考えている。</p> <p>12番 国土強靱化地域計画策定事業費について 法律に基づくものか。</p> <p>国土強靱化基本法第13条により、各自治体において国土強靱化地域計画の策定に努めなければならないとなっている。</p> <p>大雑把に言うところのどのような計画なのか。</p> <p>これまで起こった氷見での災害を洗い出し、そのような災害が起こった場合に市民生活に影響を及ぼさないようにするためには、どういった整備が必要かなどの計画を作るものである。</p> |
| <p>地域振興課</p> <p>越田委員</p> <p>戸田課長</p> <p>越田委員</p> <p>戸田課長</p> <p>越田委員</p> <p>戸田課長</p> | <p>5 縁結び推進事業費について。 今年度は日帰りツアーで来年度は1泊ツアーに変えるということだが、今年度の実績と来年度の見込みは。</p> <p>日帰りバスツアーの実績は男性21名、女性16名、来年度も男女各々20名程度の募集を行いたい。</p> <p>日帰りバスツアーは何回分か。</p> <p>9月29日に金沢方面へ行った1回分である。</p> <p>昨年の決算特別委員会で、この縁結び推進事業は回数を増やして、おせっかいさんの人数も増やして、マッチングの増につなげてほしいという旨の報告させていただいた。大きく力を注ぐ意味でしっかりやってほしい。</p> <p>ツアーについて説明したが、このほかに各種イベントを展開し、おせっかいさんの力を借りながら好評をいただいているものもあるので、今後と</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>もマッチングに結び付く活動を進めていきたい。</p> |
| 澤田委員 | <p>21 城端・氷見線地域公共交通総合連携事業費負担金について 直通化に向けた動きが見えてこない。城端・氷見線活性化協議会の中で 直通化について氷見市はどういった発言をしているのか。</p> |
| 戸田課長 | <p>協議会の中で、沿線各市ごとに活性化策を掲げているが、氷見市はやはり 直通化を最優先事項としている。</p> |
| 澤田委員 | <p>しかし、その動きが市民や議員にも全然聞こえてこない。新聞報道では 最近では直通化よりも LRT 化が目っている。氷見市はどの市よりも積極的に 働きかけ、ぜひ声を上げてほしい。市長にお尋ねします。</p> |
| 林市長 | <p>氷見市は声を上げていないといわれるのは、残念であります。 毎年、市長と議長と連名で県への要望にはこの直通化をあげておりま す。そういったことをぜひ議員の皆様にも知ってもらいたい。 直通化については、活性化協議会の中で氷見市だけでなく、4市そろっ て要望しており、これまでも調査検討をしている。 その中で、経費は30億円程度かかるという結論になっている。また、 JR から城端・氷見線の LRT 化を検討するといったことも打ち出された。 これについては、過日新聞報道にもあったが、県で組織を作り、今年 高岡市と砺波市から職員を派遣し検討に加わる。 LRT 化になると、車両が軽量化され勾配が強くなり、高架や地下への 対応も可能になり、直通化に向けた経費が安くなる可能性が高まったと思 っており、県とともに、しっかりと検討に加わっていきたく思っている。</p> |
| 澤田委員 | <p>昨年富山大学の副学長が諮問機関の会長として、直通化による採算はと れるとの報告もあったが、市としての決意を担当課長からもお聞かせ願 いたい。</p> |
| 戸田課長 | <p>もちろん、直通化に向けて担当課としても一生懸命やっているところで あり、先ほどの富山大学の調査も、私どもが少しでも前に進めたいと思 いから、学術研究としてお願いしているものである。いずれにしても氷見 市民の利便性を高めるために、直通化に向けて頑張っていきたい。</p> |
| 澤田委員 | <p>目標年次をたてて努力すべきでは。</p> |
| 戸田課長 | <p>そういった目標年次を出せるようにするために調査を行っているところ である。何も根拠のないところに、目標年次を出すということはあまり に無責任であり、そうした具体的な方向性をだせるように、いろんな取 組みを進めているとご理解願いたい。</p> |

| | |
|------|---|
| 稲積委員 | <p>21 新交通システム城端・氷見線地域公共交通総合連携事業費負担金について</p> <p>低速のモビリティは有人運行か、無人運行か。</p> |
| 戸田課長 | <p>利用される方が運転する有人運行である。</p> |
| 稲積委員 | <p>ルートは。</p> |
| 戸田課長 | <p>氷見駅から市内市街地を通過して番屋街までを往復していただければと思っています。</p> |
| 稲積委員 | <p>番屋街に来る観光客はどういった使い方になるか。</p> |
| 戸田課長 | <p>バスや自家用車できたら、このモビリティに乗り換えてもらい、ゆっくりとまちなかを見ていただきたい。</p> |
| 稲積委員 | <p>モビリティは車道を走るのか。</p> |
| 戸田課長 | <p>ナンバープレートを付けた車両なので車道を走ることになる。</p> |
| 稲積委員 | <p>事故防止対策は。</p> |
| 戸田課長 | <p>低速モビリティの速度は10kmから20kmだが、氷見市は20kmを予定しており、貸し出す際にはしっかりと注意事項を説明し、また保険も備えていきたい。</p> |
| 稲積委員 | <p>実証実験と言いながら、事故が起きてしまったら継続も難しくなるから、モビリティが走る路線をしっかりと確保して進めていただきたい。</p> |
| 戸田課長 | <p>専用道路があればいいのだが、氷見のまちなかでは専用道路は現実的ではない。利用者の方に安全運転に心がけていただくようお願いする。</p> |
| 澤田委員 | <p>14 まちづくりバンク事業費について</p> <p>市長時代に耐震不足で使わせなかったことがあったが、利用させることになった経緯は</p> |
| 戸田課長 | <p>不特定多数の方が使う場合、耐震化の基準が厳しかったように覚えている。現在の使い方は不特定多数ではない。また、以前のIJUセンターは、場所が分かりにくいという声があったため、現在の場所で運営をさせていただいているという経緯もある。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>荻野委員</p> <p>戸田課長</p> <p>荻野委員</p> <p>戸田課長</p> <p>荻野委員</p> <p>戸田課長</p> <p>荻野委員</p> | <p>18 関係人口構築推進事業費について</p> <p>氷見の姉妹都市は3市あるが、そこの関係人口の構築の考えは</p> <p>おっしゃるとおり、姉妹都市とも関係人口の取り組みは必要だと考えている。各課ですでにいろいろと交流事業を行ったりしているが、新年度に氷見市のFANクラブを作る事業も計画しているので、姉妹都市の方にもぜひ入っていただき、輪を広げていきたい。</p> <p>22 北陸新幹線2次交通運行事業費について</p> <p>氷見市は7,000千円、高岡市、七尾市の負担金はいくらか。運行便数、利用人数は。将来的にはどうするのか。</p> <p>富山県、高岡市、氷見市が各々7,000千円のほか、加越能バスが負担している。往復8便、利用人数は今年の1月分は1800人余り。今後の展開は、高山方面からのバス路線を導入できないか検討している。</p> <p>七尾市の負担金は</p> <p>令和元年度からこの負担割合になったが、それ以前は七尾市も入っていた。</p> <p>これまで5年間の検証をしながら、今後の2次交通のあるときにはあり方について広域連携を踏まえしっかり進めていってほしい。</p> |
| <p>新文化施設建設室</p> <p>澤田委員</p> <p>京田室長</p> <p>澤田委員</p> | <p>2 新文化交流施設整備事業費について。</p> <p>昨年12月末に基本設計が完了した際、自宅に資料を送ってもらったが、その後模型等もできているが、議会への説明は終わっているという認識か。</p> <p>12月初旬には、基本設計の概要という形で、全員協議会等で説明させていただいた。</p> <p>基本設計をもとに実施設計へと移行するが、基本設計自身の議論は十分されていないのでないか。</p> |

| | |
|--------|--|
| 京田室長 | 基本設計はプロポーザルにより(有)ナスカを選定し、出てきた提案は、市でももちろん十分に検討し市民ワークショップでも議論したうえで、設計に反映した。 |
| 澤田委員 | 私は、議員として、またこの委員会の委員として基本設計については説明を受けていないと思っている。5mかさあげの案は、市の提案か、業者の提案か。 |
| 京田室長 | 6月末に県内の洪水浸水ハザードマップの改定が行われ7月に公表された。ちょうどそれが基本設計の業者選定の時期と重なっている。 設計提案者としてはそういった情報も耳に入れ、市と協議したうえで提案していただいた。 |
| 澤田委員 | 当初のプロポーザルの募集時には5mかさ上げの条件はなく、設計者選定委員会の中でもその議論はなかった。(有)ナスカのプレゼンテーションでも5mかさ上げの提案はなかった。設計業者が決まったのは8月。今の部長の答弁には矛盾があると思う。 |
| 小清水委員長 | 澤田委員、遑って議論が終結したものについての意見になっているので、今回の予算案についての質疑をするように。 |
| 澤田委員 | 議論は終結していないと思うが、わかりましたよ。 それでは、ピロティ方式にしなかった場合と、した場合と比較し、建設コストはどれぐらいの差異があるか。 |
| 京田室長 | 正確な数字は手元にはないが、ピロティ方式にすれば、当然ワンフロア上がるので建設費の増は考えなければならないということは、提案の時点でもあった。ただし、前例もあるので設計者の実績から、全体的に整備費について、つめるところはつめて、極力想定している事業費の中で、全体の設計をするという前提に立っていただいた。 |
| 澤田委員 | そういった抽象的な話ではだめだと思う。2割高になるとか、3割高になるとか。総額ではいくらかなど、これから詳細設計に入っていかなければならない段階で、具体的な説明をもらわないと納得できない。予算がどういった状況で決められていったか理解できないので説明をお願いします。 |
| 小清水委員長 | 京田室長からは予算の範囲内で設計するよということだが、澤田委員からは2割、3割の増額があるのかという質問でしたので、その答弁をお願いします。 |
| 京田室長 | 全体の建設費がいくらになるかということは、実施設計の中で詰めている |

| | |
|-------------|---|
| <p>澤田委員</p> | <p>ところだが、基準となる事業費に収められるような設計内容を協議しているところである。</p> <p>この予算が可決されれば、すぐ実行されるので真剣に質問している。ハザードマップが改訂された理由で5 m上げたということであれば、他の施設、例えば、海浜植物園、漁業交流センター、あさひの丘こども園にも矛盾が出てくる。これは非常に慎重な対応が必要である。</p> <p>いずれにしても、今は総枠の予算はわからないということか。</p> |
| <p>京田室長</p> | <p>まず、先ほどの説明に補足すると、ピロティ方式にすることにより、2億円程度はコストアップすると聞いている。当初から概算事業費は示したうえで、設計に入ってもらうことが条件なので、よってこちらから示している39億円余りの事業費の中での設計を組んでもらっている状況である。</p> |
| <p>澤田委員</p> | <p>もういい加減にやめるが、5 m上げるのは上庄川の氾濫を想定した中での対策ということだが、私も上庄で育ったが上庄川が氾濫したのは聞いたことがない。過去のデータ、将来予測も含めて市民へ説明が必要だと思いがいかがか。</p> |
| <p>京田室長</p> | <p>考え方の基本は、示されているハザードマップによる浸水予想が、当該地では最大で3 m～5 mという想定がされたので、もちろん、可能性、確率の話だが、少しでも、そういった危険性があるということが示された以上、このピロティ方式にすることが必要であると考えたものである。</p> |
| <p>澤田委員</p> | <p>他へ避難するという選択ではなく、上庄川が氾濫し、3 m～5 mも浸水するまで、この建物の中に留めておくためにワンフロアを上げるということはいかがなものかと思うが。</p> |
| <p>京田室長</p> | <p>2つの要素があり、1つは利用者または近隣の市民の安全を図るという意味で、近隣の方が2階のロビーへ一時緊急避難していただくこともできる。2つには、施設自体が、いったん浸水してしまうと、その後の復旧に相当の年月と大規模な修繕が必要となり、設備についても入れ替えにより多額の費用が生じることが考えられる。</p> <p>よって高床式にすることにより、メインとなるホール部分や機器類等の設置についても浸水域の上に配置でき浸水を免れることができる。そうしたことは広島県の三好市にも同様の施設があったことにより理解できるものと判断した。</p> |
| <p>澤田委員</p> | <p>三好市の場合は一級河川が町の中に2、3本も流れ込むところであり、小川のような上庄川と比較・・・</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>小清水委員長</p> | <p>(「小川?何ゆうとるがい」と叫ぶ声あり) 委員長、私の質問なんですが。</p> <p>質問を続けてください。</p> |
| <p>澤田委員</p> | <p>その比較は無理だと思う。同じような川だと認識しているのか。</p> |
| <p>林市長</p> | <p>先ほどから澤田委員の発言は、ここに5m高い施設は必要かということだが、県で作った上庄川を含めたハザードマップの中で、3mから5mの浸水が示された。</p> <p>上庄川は、委員は先ほど小川と申しましたが、氷見市で一番氾濫する危険が高い河川だろうと、私の40年余りの土木の経験の中でも、そのように思っている。</p> <p>なぜ氾濫するかというと、他のところは堀込河道だが、上庄川は堤防方式で、堤防が決壊すると堤防の高さの部分が全部水が入るわけです。</p> <p>部長が申したとおり、まずはその施設を守らなくてはならないということ、また付属的には下のスペースは駐車場やイベント広場になる。</p> <p>もう1点は、あつてはならないが、ハザードマップとは、考えられる最大の洪水だが、付近の皆さんが逃げるところが本当に必要であり、5mの高さの施設があれば、緊急的に逃げることができる。</p> <p>完成した暁には、市としての避難所とすることも当然考えていかなければならない。</p> <p>そうしたことから、コストとして2億円高くなるが、私は市民にとって絶対必要な施設だと確信している。</p> |
| <p>澤田委員</p> | <p>市長のおっしゃることよくわかりました。</p> <p>今上庄川の危険性について聞いたが、その対策としてこの建物が必要だということだが、ここでお願いしておきたいのは、上庄川の改修工事でR160号までの計画の中で、今日の発言を含めて上庄川の堤防の徹底的な強化についてお願いしたい。</p> <p>(「担当課が違うやろ。終われ終われ」という声あり。)</p> <p>上庄川を強化することで、今の建物の安全性が高められる。建物の保全という観点から必要だと思うが。</p> <p>この予算により、5mフロアが上がり、完成したら、後の維持管理を含めて費用負担等、皆さんが責任を持たなければならない。だからしつこいほどの質問になったが、委員長にはお詫びする。答弁はいりません。</p> |
| <p>小清水委員長</p> | <p>今の発言は質問の形で終わっていないので、質疑として認めません。質疑の場なので、質疑の形で進めるよう議事の進行に協力願います。</p> |